

保育園での異文化体験エピソード



その11 叩いたのではないのだけど…



イラスト・うつろあきこ

□ ロン君（オーストラリアから来た5歳児）は、入園した直後はまだ日本語がよくわかりませんでした。でも、とても好奇心の旺盛な子だったので、遊びの仲間に積極的に入っていました。

ところが、彼とクラスの子どもがしょっちゅうけんかになったのです。すぐに彼が殴りかかるので、殴られた子どもが泣き出して、遊びが中断してしまいます。

双方から事情を聞くと、決まってロン君は「自分は悪くない。どうしてか」といって、先に叩いたのは相手のほうだ」といいます。ところが、泣いている子どものいい分は、「叩いてなんかない」といい、まわりの子どもたちもそのいい分を認めていました。

状況を再現してみると、クラスの子どもたちは、言葉が通じないので、ロン君に何か用があるときに背後から声をかける場合、つい彼の肩や背中を軽く“とんとん”と「叩いて」いたのです。でも、ロン君はそのことを文字通り「叩いた」と解釈していたので、力いっぱい反撃に出ていたのです。

文化によって、コミュニケーションのしぐさの違いがあるのだと思いました。

（藤井 修／京都市・たかつかさ保育園園長）

「地球家族ネットワーク」へのお誘いとエピソードのお願い

保育は、世界中の人と仲よく生活できること（平和）を伝える役割があります。

そこで、国際交流や外国籍の子どもたちの保育について情報交換をしたい方は、「地球家族ネットワーク」に参加してみませんか？！

また、外国籍の子どもを受け入れて、心に残るエピソードがありましたら、ぜひお寄せください。

全私保連 保育国際交流運営委員会

TEL 03-3865-3880 / FAX 03-3865-3879

E-mail : ans@zenshihoren.or.jp